

【豊 廣 徳 輝（2年 伊奈町立小針中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

今回の姉妹校表敬訪問では、数多くの事を学ぶことができました。これまでの台湾のイメージは、親日国家でとても日本に近い国というものでした。今回の研修旅行で実際に現地に足を運び、現地の方々と意見交換をさせていただき台湾という国はどんな国であるか、また海外から見た日本はどのように見えているのか身をもって学ぶことができました。

まず、一つ目は訪問した南山高級中學は歓迎からとても温かく迎えてくれ、先生・生徒一人ひとりが優しく、フレンドリーかつおもてなし精神の高さに感動をしました。日本人にはない温かさを持っていて、私たちがお手本にしなければならぬと思いました。ここで学んだ手厚い歓迎は、これから本校を訪問される方々の歓迎の一つの手本として生かしていきたいと思いました。

南山生徒より校内案内をしていただきましたが、その際の言語が英語でとても流暢だったのでとても驚き学力の高さを感じました。校舎はキレイでビルのように高いものでした。校内には緑があり、とても過ごしやすく清潔な印象を持ちました。壁には勉学に関する事が書かれており学校全体として勉学への意識の高さを感じました。授業体験では、書道と体育を体験しました。書道では実際に字を書かせていただきましたが、その際にご指導していただいた先生はとても優しくかつ丁寧に指導していただきました。言葉が伝わらなくても通じるものがあると学びました。

南山高級中學では、生徒の勉強に対する思いや将来の夢の実現への道のりなどを明確に捉えて勉強をしており、学力に対する姿勢の高さや計画性を学びました。生徒一人ひとりが明るく、授業を楽しんで受けていてとても良い学校だと私は思いました。本校と比べると生徒が勉学に対する意識の違いを感じました。本校生徒が出来ていない点や勉学への向上意識のために、今回感じ考えたことを浦学生徒全員に伝えていき、浦学の向上につなげていきたいと思いました。

次に、二つ目に訪問した慧燈高級中學は、南山同様に歓迎から温かく迎えてくれ先生方の優しさとおもてなし精神の高さに感動しました。手荷物の保管場、各時間の待合室として校長室を使わせていただきましたが、校長先生の優しさとゲストを想う親切心の高さに感動しました。私たち一同が時間調整で校長室にいると校長先生は今までされていた仕事を中断し、私たちに笑顔でお茶を配付してくださいました。このようなちょっとした気配りの大切さを改めて感じるものとなりました。

慧燈高級中學では一泊学生寮に泊めていただきました。私たち男子と林先生、板橋先生は中学一年生の寮に泊まりました。寮の部屋はとても広くて、とても過ごしやすかったです。生徒の皆さんが自習を終わらせて寮に戻ってくると時間を見てしっかりと行動をして、就寝時には寝処に入り寝ていました。私は時間の正確さと生徒一人ひとりの礼儀の正しさに感動しました。本校はチャイム着席やチャイムと同時に授業を始めることすらできておらずとても恥ずかしく感じました。慧燈生徒の時間の正確さと礼儀正しさを浦学生に伝えることと、何らかの行動にして今後の浦学の質の向上を行っていききたいと思いました。

授業体験では、美術・音楽・家庭科・英語の授業に参加しました。その中で英語の授業ではとてもレベルが高いもので、学力の高さを感じました。英語では授業用プリントいただいて実際に問題を解いてみましたが、判らない単語が多くてとても難しかったです。自分の語学力がまだまだだと悔しい思いをしました。この悔しさを今後の勉強への励みにして頑張っていきたいと思いました。また、昼食と午後の授業の前に 45 分間の昼寝の時間がありました。昼寝をすると午後の授業に対する意識が多々向上するというのは前から知っていましたが、実際に行っている学校を体験でき貴重な経験となりました。創立 40 周年を迎えた浦学の改革の一つとして生徒会で提案したいと思いました。

この研修旅行では訪問校の先生方、通訳を担当してくれた台湾サンガの皆さんやバスの運転手さんなど多くの方と接する機会がありました。とても優しくフレンドリーで積極的に話しかけてくれました。今回の研修旅行が今後の人生、浦学そして日本に意味のあるものへとするために、感じ考えたこと、何を行動していくべきかを自分自身から情報の発信をして、浦学と南山、慧燈との関係だけでなく、今後の日本と台湾の友好関係に益々の発展への一つとしていきたいと思います。

【奥井 彩 葉（2年 三郷市立早稲田中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

私は今回の台湾姉妹校訪問で二つの大きなことに気づきました。

まず一つ目は、勉強に大切なのは時間ではなく意欲だということです。今回訪問した両校では皆朝早く登校して外の掃き掃除をし、終わった後は朝自習を真剣に取り組んでいました。それだけでなく、午後の授業を集中して受けられるように昼寝の時間があったり、こまめに窓を開けて換気をし、教室内の二酸化炭素濃度を下げ、眠くなることを防いだりと、授業をちゃんと受けるための工夫がたくさん見られました。これらは勉強をしっかりとやろうという表れだと思います。実際彼らと交流してみると、英語は私たちよりもはるかに長けていて、更に日本語が話せる生徒も多くいました。私は今までの授業態度を見直してとても恥ずかしくなりました。彼らの時間割を見てみると、私たちとやっている英語の時間数はほぼ変わらず、与えられた環境は同じなのにここまで差が出ているということから私たちの意欲が低いことを思い知らされました。

二つ目は英語の重要性です。お互いの言語がわからない場合、共通して理解できるのは英語しかありません。その英語がわからなかった場合コミュニケーションをとる方法はジェスチャーしかありません。世界共通語は英語だということは誰でも知っていることですが、その英語が話せないということがどれだけ不自由なことかを知っている人は私の周りには少ない気がします。今後グローバル化が進んでいく上で英語は必要不可欠となっていくはずですが、その中で英語が話せないままいるのは自分の将来の可能性を狭めかねません。その危機感を学生という勉強するための期間に持てたことはとても幸運なことだと思います。今回得た価値観や知識を友人にも伝え、自己の向上に努めていきたいと思っています。



【佐久間 竜 士（2年 さいたま市立常盤中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

私が今回の研修で大きく興味を持ったことは「台湾と日本との経済的な関係性」です。

私は台湾に行く前、台湾は中華系の国であるため、日本の製品の方が多いのではないかと予想していました。しかし行ってみると、私が一番初めて見たものは日本メーカーの車でした。さらにホテルのテレビやトイレも日本の製品でした。このことから私は台湾と日本は経済的に深い関係なのではないのかと、なぜ日本製品が多く使われているのかと疑問になりました。

台湾での日本車のシェア率は約70%、台数にしても約70万台ととても多いことがわかります。これだけの数字で台湾と日本は経済的に大きな関係であることがわかります。これらは、日本製品は安心と話してくれました。しかし値段で比べると中国製品の方が良いのではないかとSNSを使い台湾の生徒に聞いてみたところ、化学は中国製品の方が安い、日本製品の方が故障がないため長い時間を考えると日本製品の方が安いと言っていました。そのことから日本製品の安全性を再度確かめることが出来ました。

次に私が関心を持ったことは「日本への関心の高さ」です。訪問した際、台湾の生徒は日本語で日本について沢山の質問をしてくれました。さらに、日本の大学に行きたいという生徒もいました。台湾では日本のアニメが放映されており、多くの学生がそれらを見ていました。それが日本への関心につながっているのではないかと考えました。漫画を読むために日本語を勉強し始めたという学生もいました。日本の学生も英語を勉強する際、他国に興味を持たないと英語能力は向上しないと思います。日本人も他国に興味を持ち学習していかないと英語の向上は見込めないと思います。

今回の研修を通し、私は初めて海外に行き異文化に触れ、私の想像以上に外国と日本の文化の違い、人の考えの違いを感じることができました。もっと遠くに行ったら、もっと文化の違いがあると思います。修学旅行でも異文化に触れる機会があるため、グローバル化の波に乗り遅れないようにしたいです。

【池田 龍 星（2年 和光市立第二中学校出身） ～進学類型文理進学コース～】

私は、今回の台湾姉妹校訪問に参加できてとても良い経験をし、他の国の人々と交流を通じて台湾の食文化や歴史、言語など自分がまだ知らないことを知ることが出来ました。

私は、保健委員会副委員長として参加しました。台湾に行って自分がすべきことは、浦和学院の保健とISSの活動を説明することでした。その仕事を全うし、台湾の高校生に伝えることが出来ました。台湾では、南山と慧燈高級中學に訪問しました。それぞれの学校はとても大きく浦和学院が小さく見えてしまうほどでした。

南山高級中學では、校内の見学と授業体験と生徒間の交流をしました。授業は書道が印象的で独特の書き方をしていました。生徒間の交流では、それぞれの生徒が積極的に話していました。慧燈高級中學では、部活動参加、授業参加、生徒間の交流をしました。印象にあるのは、英語の授業の参加でした。授業では、英語しか使ってはいけないというもので、みなとても英語をペラペラと話していました。私はそれを見てもっと学ばなければと思いました。生徒間の交流は、南山の時と同じように、互いに積極的に交流し深い絆が生まれたと思います。

食文化では、毎日が中華料理ですべて味が濃かったり、甘かったりと口に合う人と合わない人がいるようでした。しかし、本場の焼売はとてもおいしかったです。歴史では故宮博物館に行き台湾の歴史を深く知ることが出来ました。

【田 島 莉 奈（2年 越谷市立北中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

今回の研修は私にとって多くの発見、そして学びが得られた大変有意義なものになりました。

街自体に日本とは違う箇所がいくつもありました。まずバイクの交通量の多さです。至る所でバイクが走行、駐車してありました。大きな交差点では信号機の点灯する部分が5つあったり、歩行者の信号機はカウント式の数字が表示されていたり、車は右側通行で運転席は左にありました。建物は、赤や茶色のものがあったりタクシーは黄色だったり異国を感じました。何より驚いたのはトイレです。日本では使用した紙をトイレにそのまま流すだけですが、台湾ではごみ箱に捨てます。学校や寮では、個室に紙は置いてなく、前もって使う分の紙を持って入らなければなりません。正直、とても不便でした。もちろんウォシュレットなどもついていないので、このような技術は日本の方が進んでいると感じました。

しかし、学校訪問では教育設備などが、少なくとも浦学より上回っていました。例えば、ほとんどの教室にテレビが設置してあったり、二酸化炭素を部屋の中にももらせず、生徒が眠くなりやすいようにしたりと最先端の技術が使われていました。また、生徒の英語力の高さも私たちは比べものにならないほどでした。発音からとてもうまかったです。実際、慧燈高級中學で英語の授業に参加させていただきましたが、私はほとんど理解できず恥ずかしさとともに、自分の英語力の無さを痛感しました。まず授業スタイルの違いとして、先生は授業内でほとんど中国語を使ってなく、英語だけで授業をしていました。また、生徒は皆、積極的に挙手をしたり発言をしていました。これは授業の楽しさがポイントになっていると思います。

英語だけでなく、台湾の生徒は日本語を話せる生徒が多くいました。私たちは簡単な挨拶程度の中国語しかできないのに対し、彼らは日本語で簡単な会話が出来ました。また、言語がうまく伝わらないながらもとても親切で美術や家庭科の授業では手伝ってくれました。

私が今回の研修で学んだことは異文化理解や集団行動の大切さです。異国の文化や人々の交流によってカルチャーショックを受け、それがまた、いい刺激になりました。両国を比較したとき、日本の良さを再認識したり、逆に日本の劣っている部分も見えてきました。集団行動の面では、少数ではありながら、一人ひとりが協力し、自分の役割を果たすことができたと思うし、海外だからこそ他人を思いやりながら過ごすことができたと思います。

私は今回の研修を通して日本が見習うべきことを見出してきました。私自身もたくさんの課題が見えてきましたが、これを学校や日常生活の中で生かしていきたいです。まず

は修学旅行までに英語力をもっと磨き、多くの会話をしていきたいです。また、世界に視野を広げ、多くの事に関心を持ちたいです。そして国境を越えた繋がりを大切に、これから継続していきたいです。

最後に、今回このような研修を企画してくださった先生方をはじめ、交流してくださった台湾の先生方や生徒たち、そして保護者に感謝します。全体を通して、とても楽しく過ごすことが出来ました。

【小松 勇斗（2年 入間市立向原中学校出身） ～進学類型文理進学コース～】

今回台湾研修旅行に行って自分の中ですごく良い経験ができたこと、今後の人生や過ごし方などたくさんの事を学びました。この後の過ごし方、将来の進路についてもこの経験によって視野がすごく広がりました。

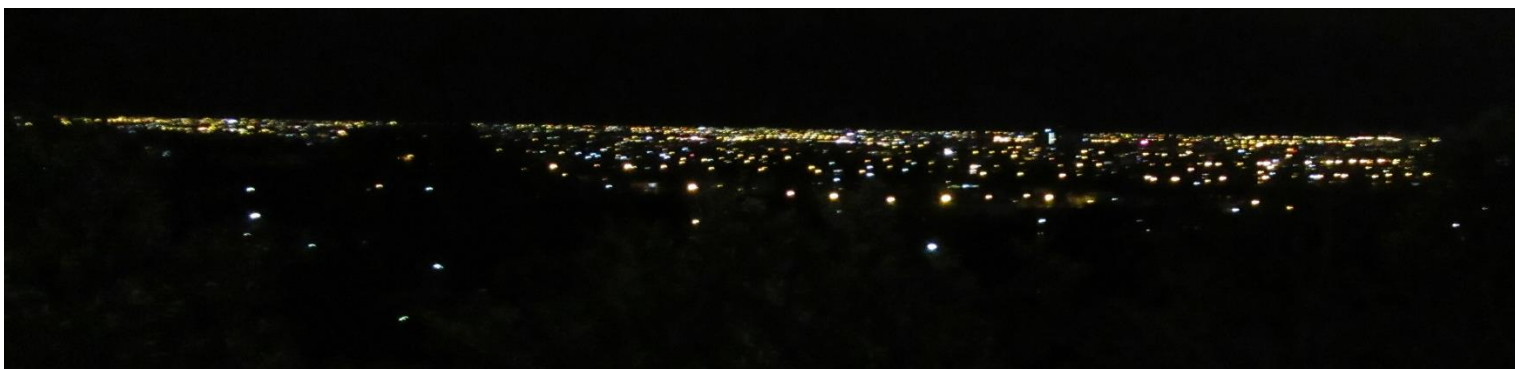
一日目は、まず羽田空港に集合して台湾松山空港へ向かいました。第一印象は日本に比べてすごく暖かい国だと思いました。ガイドさんが自分たちのことを迎えてくれて、その後マイクロバスに乗ってホテルに行きました。夕食のレストランへ歩いていき、野球部もお世話になったことのある台湾の葉さんと一緒に夕食をいただきました。すごく親切にいただき、おもてなしがすごく良かったです。夕食を食べた後に散歩をして、日本にあるセブンイレブンやファミリーマートがすごく多かったです。道路は車も結構通っていましたが、バイクを使っている人が多く、日本製のものがたくさんありました。

二日目は、最初に南山高級中學を訪問しました。学校に着くと全校生徒の皆さんが自分たちのことを歓迎してくれました。会議室に行き南山の校長先生や関係者と一緒に話をしたり、台湾の伝統的な朝食をいただきました。自己紹介をし野球部代表で来たということを伝えると、南山の人たちが拍手をしてくれました。野球というスポーツは台湾でもすごく人気があるのだなと感じました。この研修旅行で特に感じたことの一つとして、台湾の生徒はみんな英語を話せたことです。南山高級中學で自分たちと一緒に行動してくれた生徒たちが、学校紹介をするときに英語で紹介してくれました。日本と台湾との語学の差をすごく感じました。泡サッカーを体育館で行い、すごく楽しむことができました。台湾の記者も来ており、実際に泡サッカーをしている時の交流の様子が台湾のニュースで報道されました。昼食を南山の生徒と一緒に食べたり、お互いに質問をし合うなどして過ごしているうちに、とても友情が深まりました。最後の時に、パフォーマンスをしていただきました。この日のためにやってくれているのだなとすごく感じました。両校の交流、友情も深まり良い訪問になりました。

二校目に訪問した慧燈高級中學も自分たちが着いたら、すごく大歓迎をしてくれました。慧燈高級中學に着いたのは、午後4時過ぎだったけれど校長室に行き挨拶をし、その後部活動体験で書道をしました。台湾では、書道を行う文化があり自分も書道の先生の話をよく聞いて楽しんで書くことが出来ました。部活動体験後は、夜景が綺麗なレストランで食事会をしました。慧燈の生徒たちが積極的にコミュニケーションをとってくれたため、たくさん話ができました。そのこともあり、今後の人生で英語は必要だと強く感じました。夕食後、学校に戻り交流会がありました。野球部代表ということを伝えると、すごく喜んでくれました。実際に野球部が台湾遠征の時に交流があった高校でもあり、校長先生を始めたくさんの人たちに熱い歓迎をしてもらいました。慧燈高級中學で驚いたのは全寮制の学校だということです。一人ひとりの勉強の意志が強く自ら進んで行っていました。

三日目は、美術・音楽・家庭科・英語の授業体験をしました。そこでたくさんコミュニケーションをとり、新しい友情も深まりました。英語の授業では慧燈の一番頭の良いクラスに参加しましたが授業のレベルが高すぎると感じました。同じ高校2年生だけれども、学力の差を感じました。最後の交流となったプレゼント交換の時も50人くらいの生徒と交流しました。この二日間の訪問は、自分の中ですごく良い経験になり今後に活かせる活動となりました。この日の夜はレストランで夕食をとった後に夜市（夕方から夜中にかけて営業する屋台や露店などの集合体）に行きました。なかなか経験できないことをさせていただき感謝しています。

この4日間でたくさんの事を学び、考え方も変わりました。自分の中だけに留めるのではなくこれを全体に共有して今後の生活をより良いものとしていきたいと思います。下級部の皆にもしっかりと伝えて野球部の今後活動に活かしていきます。



【山崎京花（2年 加須市立加須平成中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

私は11月21日から24日までの4日間、台湾の研修に参加させていただきました。

二日間の台湾の学校訪問の中で、私が感じたことは、台湾の生徒のほとんどが、学習意欲が高く楽しんで授業を受け積極的に勉強をしているところです。そして、私たちにも積極的にコミュニケーションを図ってくれました。お互いの言語が通じていない中で、英語やジェスチャーを使ってコミュニケーションをとりました。伝えようとするのが大切で、英語が単語でしか言えなくてもどうにか伝えようとすれば伝わる場面が多くあるということを知りました。

この4日間、日本と台湾の国の差はたくさんありました。台湾で学んだ、勉強への意欲や勉強の楽しさ、積極性を今後の自分の生活に役立てていければ良いです。貴重な経験ができました。楽しかったです。

【シャリフカーン・ムニーザ・皓（2年 川口市立戸塚西中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

台湾に行く前、私は台湾がどこにあって何語を話すのか知りませんでした。そんな中、台北空港に着いたとき漢字ですべて表記され小さく日本語も書いてあったため、外国にいるという感覚がありませんでした。ただ、外に出ると日本と違うところが多く実感が湧いてきました。

私がこの台湾旅行で一番驚いたことは、交通に関してです。交通量が多く、特にバイクが多かったです。信号も5つありびっくりしました。車のハンドルも逆で道路も右側通行で、世界では右と左のどちらの通行が多いのか気になりました。

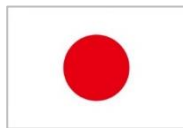
高校訪問で出会った生徒の皆さんは本当に愛想がよく、日本語も話せる人がいて感心しました。初対面の人にいきなり連絡先を交換したら、馴れ馴れしく思われるかなと思いましたが、全然そんなことなく快くアドレスを教えてくれて良かったです。趣味が同じ人がいて、とても仲良くなれたので嬉しかったです。

私立の高校ということもあり、学校の設備が整っていて、生徒たちがいかに良い環境で勉強できるのか、よく考えているなと思いました。昼寝の時間があることも驚きました。一番すごいと思ったのは、各教室に二酸化炭素を減らす機械がついていることです。授業中もみんな楽しく勉強していていいなと思いました。ただ、英語の授業が私たちの日本の高校生からするととても難しく、プリントが配られたけど一問も解けなかったです。しかし、台湾の生徒は5分もしないうちにたくさん問題を解いていました。私ももっと英単語を覚えるように努力しようと思いました。

もう一つすごいなと思ったことは、慧燈高級中學の寮です。いろいろな制限があり、自由が少ないけどそれでも頑張っている生徒を見て本当に感心しました。寮での朝、生徒たちの支度を見て「みんな喋らず自分の事に集中している」という加藤先生の言葉がとても印象に残りました。寮生活は慣れてくれば苦でなくなると思うけれど、今の自分には自信がありません。

観光スポットも良かったです。その中でも有名な夜市（夕方から夜中にかけて営業する屋台や露店などの集合体）がとても楽しかったです。何回もはぐれかけたぐらい混雑していました。おいしそうな食べ物も多かったけれど、スマホケースも多く驚きました。

この4日間の研修で、たくさんの日本との違いを発見し、人に伝えたいような経験もでき良かったです。私の将来の夢は国境が関係ないものなので、そういう面でも外国の方とのコミュニケーションの大事さを学びました。それと同時に、自分の課題も発見したので、今回の研修を活かし出会った人たちを心に留めながら日々の生活を送っていきたいと思います。



国際教養の浦学



生徒自身が「感じ・考え・行動する」習慣を高め

大きな刺激と影響を与えてくれた海外研修
今後の学校生活や人生へと活かし更なる成長に期待!!